

Olympic
Movement

<平成27年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

太田市立太田中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人 JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
 ※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイムなどを設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の
確認



写真・映像などを使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験
に基づく「オリンピックの
価値」などについて話す



グループ（個人）ワーク
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成27年10月8日 (木)
- 場 所 : 太田市立太田中学校
- ク ラ ス : 2年A組 (35名)
- オリンピアン : 伊藤 華英 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認 等



- ・簡単な自己紹介と、水泳競技について説明。
- ・パネルを用いながら、オリンピックシンボルの意味や、オリンピズムとオリンピックバリューについて説明し、一生懸命やりきることの大切さを伝えた。

2. 準備体操 等



- ・準備体操、ペアストレッチ実施後、体育館を2周ランニング。



3. 主運動 等



① 八の字跳び (60秒×3回戦)

- ・3班に分かれ、連続して跳べた回数を競う。
- ・1回戦終了後、ホワイトボードの前に集まり、跳べた回数と気を付けた点を班ごとに発表。どうすれば1回目よりも回数を伸ばせるかを話し合う。

② 大縄跳び (全員)

- ・「1回でも跳ぼう」という伊藤先生の掛け声のもと、みんなで力をあわせて取り組み、4回目で成功。生徒同士が積極的に声を掛け合う姿が見られた。

4. まとめ 等



- ・一生懸命取り組むこと、1つの目標へ向かって協力することの大切さはオリンピックバリューにつながることで、みんなが普段から実践していることである。
- ・座学の時間ではオリンピックバリューについて、より詳しく話すと予告し授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認 等



- ・北京大会、ロンドン大会出場時の写真を用いて、自己紹介と競技について説明。
- ・古代オリンピックの歴史と近代オリンピックの復興について、クーベルタンのパネルを用いながら説明。2020年に東京でオリンピックが開催されることに触れ、「出る、見る、支える」という形でオリンピックにかかわることができるチャンスだと伝える。

2. オリンピックの価値を伝える 等



- ・出場を逃したアテネ大会から、北京大会、ロンドン大会に出場するまでの経験を通して感じた「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つのオリンピックバリューについて説明。北京大会までの4年間は練習を絶対休まず、120%の力で取り組むこと（エクセレンス）、ライバルを知ること（フレンドシップ）、指導してくれるコーチやレースで負けた相手にも敬意を示すこと（リスペクト）を心がけた結果、オリンピックに出場できただけでなく、努力する過程で同じ目標を持つ仲間たちに出会うことができたと話した。



3. グループワーク 等



発問：みんなの日常生活にあるオリンピックバリューを考えてみよう。

発表：妥協せず本気で取り組む（エクセレンス）、合唱コンクールに向けてみんなで頑張る（フレンドシップ）、相手を敬う気持ち（リスペクト）

4. まとめ 等



・3つのオリンピックバリューは日常生活の中にもあるので、今後の生活にも活かしてほしい。改めて東京2020大会について触れ、オリンピックには「出る人、見る人、支える人」がいる。今日の授業をきっかけに自分がどの役割を担うのかを考えてもらえたら嬉しいと話した。

・最後に伊藤先生が大切にしている言葉「Be positive Be humble」という言葉を生徒達に送り、常に前向きで謙虚な人になってほしいと伝え、授業終了。

- 期 日 : 平成27年10月8日 (木)
- 場 所 : 太田市立太田中学校
- ク ラ ス : 2年B組 (35名)、2年C組 (35名)
- オリンピアン : 小口 貴久 先生 (リュージュ)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認 等



- ・小口先生からリュージュ競技の説明を交えて自己紹介。実際にボブスレー、スケルトン、リュージュ競技の滑走姿勢を体験。
- ・運動の時間は考えながら動いてほしいと伝え準備運動に入る。

2. 準備体操 等



- ・班ごとに整列してダイナミックストレッチを実施。
- ・ペアを組みスタビライザーを実施。小口先生から生徒へアドバイスを送る。



3. 主運動 等



①ボールを陣地に入れるゲーム

・1人1個ボールを持ってステージ前に集合。生徒2人と小口先生が鬼役となり、鬼にタッチされないようにステージの反対側の壁付近に置かれたフラフープに60秒以内にボールを全て入れる。

②縄くぐり

・3班に分かれ長縄を跳ばずにくぐるゲームを実施。30秒間ミスをせずにくぐれた回数を競う。1回目の記録を超えるために班ごとに作戦タイムをとり、考えた改善点をホワイトボードに記入。全3回戦実施。

4. まとめ 等



・意見を言い合うこと、工夫すること、相手を見ることの大切さを伝え、座学の時間ではオリンピックについて学んでみよう話し、運動の時間を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認 等



- ・オリンピックについて知って欲しいという授業の目的を伝え、古代オリンピックや近代オリンピックについて説明。
- ・バンクーバー大会出場時の映像を用いてリュージュ競技を紹介(スタートの仕方、滑走の姿勢、バランスの取り方やその操作方法等)。

2. オリンピックの価値を伝える 等



- ・オリンピックバリューについて自身の経験を話しながら、このバリューは日常生活の中にも溢れていることを伝える。
 - ・オリンピック出場を目指して小口先生が実践したことを紹介。
- 「話す」：オリンピックに出るとい目標は1人では叶えられないので、多くの人に協力してもらるように自分から積極的に「オリンピックに出たい」という夢を話した。
- 「考える」：夢を実現させるために何をすべきかを常に考えて行動していた。
- 「続ける」：辛いことややめたいと思うことは沢山あったが、あきらめずに続けてきたからこそオリンピックに3回出場することができた。



3. グループワーク 等



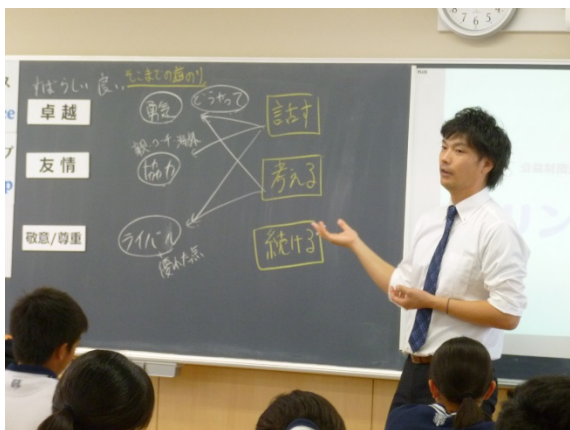
発問①： 運動の時間を振り返り、自分や同じ班の人のどんな行動が、どのオリンピックの価値にあてはまるか考えてみよう。

発表①： 記録を超えるために新しいことに挑戦した、ルールを守りながら考える、みんなで1つのことを達成する。

発問②： 自分の夢や目標を叶えるためにしたいこと、学校、学級目標を達成するためにしたいこと、またそれがどのバリューにつながるか考えてみよう。

発表②： 人が見ていないところでも努力する、ルールを守る、様々なことを経験する。

4. まとめ 等



・オリンピックの価値はオリンピックだけではなく、普段の生活の中にも存在していることを意識して、夢や目標にむけて必要なものは何かを常に考えて実行することが大切であると伝え、授業を終えた。



■ 集 合 写 真

2年A組



2年B組





■ 集 合 写 真

2年C組





■ 記念品贈呈



■ 証明書贈呈

